

Vol.67

院長 関の

Face to Face

2014年 1月 1日発行



東洋医学ではいわゆる感冒「風邪を、寒邪・かんじや」といいます。寒さが体に入って悪寒、発熱、鼻水や咳などの症状を引き起こすという意味です。

風邪かな？と思ったら皆さん何をなさいますか？風邪は3日寝れば治るからとにかく休む。卵酒を飲んでさつさと寝る。熱いお風呂に入って汗をかく……。昔からの知恵を活かし、あとは自分の免疫力に任せるのは大

クシャミ3回...何しますか？



切なことだと思えます。しかし現代人は忙しく、わがままです。3日も寝てられない。卵酒なんて作れない、辛いものなんて一日だって嫌。そこで現れた総合感冒薬。クシャミ3回で飲みました。うなどと宣伝してました。ところがこの薬には総合と

いうだけあって、解熱剤、消炎剤、様々な作用があります。熱も炎症も鼻水が出るのだから、免疫システムの一貫。それを簡単に押さえ込むと

副作用が出るのは当然のことでしょう。だからといって病院へ行けば、ウイルスであるうとなかろうと抗生物質を処方される。そこでご提案です。ちよつとした寒気、鼻水、くしゃみが止まらない、風邪は治ったけど咳が残る……。そんな時に利用していただきたいのが東洋医学です。鍼灸治療や漢方で冷えを取り、血流を良くし、自律神経を整えることで、自分の免疫機能が正常に働きます。日頃からのメンテナンスに利用していただくのはもちろん、風邪の引き始め、治りかけもチャンスです。是非お気軽にご体験ください。

関 修一(せきしゅうち)

健育会 東銀座整骨院・鍼灸院・整体院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの「face to face」は、患者さん自身と向き合っ

て患者さんの症状と闘う「こと」を願ってつけた * 毎月1日の発行です